

愛媛のフジ、マックスバリュ西と経営統合 コスト減へ

2021/9/1 20:38 | 日本経済新聞 電子版

愛媛県を地盤とするスーパーのフジは1日、イオン傘下のマックスバリュ西日本との経営統合で基本合意をしたとし、松山市内で記者会見を開いた。2024年3月までに合併し、新会社はイオン子会社となる。

フジは業界最大手と組んで物流の効率化やプライベートブランド(PB)の販売など、イオングループの商品調達網を活用したコスト競争力を強化する。新型コロナウイルス禍による事業環境の変化や「高齢化や人口減少が確実に進む」(フジの尾崎英雄会長)という地方の課題に対応する。

フジは愛媛県を地盤に中四国地方で約130店舗を展開し、中国地方を中心に400店近くを展開するマックスバリュ西日本との経営統合で店舗数は500を超える。営業収益の総額も8800億円近くになる。

イオンの岡田元也会長は「(中四国は)市場として十二分」と話すが、20年の中四国地方のスーパーの販売額は約1兆2千億円で全国シェアは8%にとどまる。今後も市場縮小は必至で、売り上げ規模拡大による成長シナリオは描けない。

フジは18年にイオンと資本業務提携し商品や資材の共同調達を進めてきた。経営統合に踏み込んだことで一層の調達コスト低減を図る。マックスバリュ西日本も21年3月に山陽マルナカ(岡山市)やマルナカ(高松市)と経営統合したばかり。



フジはマックスバリュ西日本と経営統合を進める

各社の店舗数	
マックスバリュ	138
マルナカ	200
ビッグ	43
フジ	98
フジ連結子会社	31
合計	510

(注) 2021年2月末時点。マルナカ、ビッグはマックスバリュ西日本系

規模拡大で削減したコスト低減分を今後の商品価格や店舗サービスにどう反映するかが焦点だ。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.